

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立天伯小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8122

豊橋市天伯町字高田山 136 番地の 1

E-mail tenpaku-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.toyohashi-c.ed.jp/tenpaku-e

幼児児童生徒数 男子 137名 女子 149名 合計 286名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1, 2-1 に対応

当校は、「学び合いの中で輝く天伯っ子の育成」を学校理念として、E S D を学び方、教え方の変革と捉え、E S D の実践を通して、自分であるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した問題解決的な力の育成を目標とした。

具体的には、環境、体験、福祉を柱に、①八田平川に係わる学習、②米づくりに係わる学習、③福祉に係わる学習を行った。

① 八田平川、天伯原の開拓に係わる学習

地域の八田平川の見学や水質調査の活動や、天伯湿地保護活動をしている地域の方の話を聞く活動を通して、環境保護への意識を高めることができた。そして、より親しみやすい川にしようと川沿いにある柿の木公園の草取りなど環境保全活動を行った。

また、校区の天伯原開拓記念館を訪問し、開拓当時の苦労を聞いたり資料を調べたりして、先人の思いについて学び、郷土への愛着と誇りを持つことができた。

② 米づくりに係わる学習

P T Aの協力のもと，30年続く実習田での田植えと稲刈り，精米，餅つきという一連の「食」のサイクルを体験することで，自然の恵み，勤労や食物の大切さなどへの意識を高めることができた。また，鳥や虫，病気から米を守るために，調べ学習や話し合いを行い，米の安全性や生産性，仕事の大変さなどに対して理解を深めることができた。

③ 福祉に係わる学習

6月に福祉村キャラバン隊を招き交流を行った。7月に2回，11月に1回，福祉村を訪問して，福祉体験や交流活動を行った。障害のある人やお年寄りに対して偏見をなくし，同じ人として接することの大切さを学習することができた。また，学習したことを新聞にまとめ，校内掲示をして全校に広報を行った。



① の写真（柿の木公園の草取り）



② の写真（稲刈りを終えて）



③ の写真（珠藻荘での交流）

（2）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

| | | | |
|--|---|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |

| | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名）

| |
|---------------------------|
| J A のウェブサイト, 福祉村のパンフレットなど |
|---------------------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

| |
|---|
| <p>体験を通して、自分の願いや思いを高め、その願いや思いと現実とのずれから問題を生み出す。問題解決に向け調べ学習を進め、教師は朱書きや話し合いによる支援を行う。実際に行動し、自分の願いや思いの実現に近づける。このような問題解決的な授業展開を考え、実践した。</p> |
|---|

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

| |
|--|
| <p>子どもたちだけで解決が難しい場合や分散学習などで人手が必要な場合など、PTAにも協力をお願いできる体制をつくっている。</p> <p>特色ある学校づくりなどの補助金を利用して、活動に必要な物品を購入し、活動に取り組める環境をつくっている。</p> |
|--|

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケート（教職員）に「ＥＳＤの視点による活動を取り入れ、特色ある学校づくりが推進されているか」という項目を設け、振り返りを行っている。それによると、十分達成と概ね達成を合わせると９５％の回答を得ている。多くの教師が、ＥＳＤを意識した教育活動を行ってくれていると思われる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

外部への発信は行っていないが、６年生の福祉施設との交流では、交流によって得られた気づきや思いを新聞にまとめ、校内に掲示した。多くの子の目に留まり、福祉についての興味や偏見、差別をなくしたいという思いが伝わった。また、４年生の柿の木公園の草取りでは、近くの方から、とてもきれいになってうれしいというお言葉をいただいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本年度は６年の福祉村との交流を行った。本年度は実現できなかったが、昨年は自然史博物館の学芸員を招き、自然観察などを行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒，教員，カリキュラム・教授法，学校経営，地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域を教材として取り上げることで，子どもたちの問題意識が高まり，追及意欲が沸いている。追究の過程で，家庭で話題にあがったり，保護者に聞き取りをしたりする姿が見られた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

1 年生—天伯保育園との交流
2 年生—校区探検（自然史博物館を利用した出前授業）
3 年生—スイカづくりにおける地域の農家との交流，見学
4 年生—八田平川の保全，天伯原の開拓
5 年生—米づくり体験（PTAの協力）
6 年生—福祉体験（福祉村や地域の介護予防サロンとの交流）を予定している。